

第5回米原市自治基本条例推進委員会分科会会議録(Bグループ)

内容承認(富野会長)	承認											
公開・非公開の別	公開											
開催日時	平成20年4月18日(金)午後1時30分～3時45分											
場所	米原市役所米原庁舎 2AB会議室											
傍聴人	0名											
出席者	富野	山本	大長	高見	村岡	足立	賀治	岸根	田辺	木村	今川	北村
						-		-				-
	(事務局)千代政策推進部長・総合政策課:津田課長、服部主査、澤主任、木村											
議事	<p>前回の議事内容の確認</p> <p>分科会によるグループ討議</p> <p>A:自治基本条例と総合計画との関係から見た仕組みづくり</p> <p>B:市民生活から見えてくる自治基本条例の活用</p> <p>その他</p> <p>全体会の日程調整</p>											
<p>【分科会に分かれ議論】</p> <p>Bグループ:市民生活から見えてくる自治基本条例の活用(富野先生)</p> <p>(富野) 分科会Bグループでは皆さんの生活や仕事の中にある色々な課題をとりあげ、それを自治基本条例とどうするかについて話し合いたい。分科会にはメンバー以外にも必要であれば多くの方に入ってくださいなど柔軟に進めていきたい。また、生活実感について限られた人数で議論するとなかなか意見が出にくいかもしれないので、皆でまちに出歩き良いことや課題をつかんだり、あるいは自治基本条例を策定した際に、不満や心配してほしいことなどを抽出し、まちの課題を大きく整理したデータを参考にしたりするのも良いと思う。さらに、自治基本条例を市民の目線で見ると、条文に関連する条例・仕組みがあるかどうか、さらには別にこんな条例があってもいい、つくってもいいのではといった議論をしても良いと思う。これらの事をベースに話を進めていきたい。</p> <p>具体的な進め方としては、皆さんそれぞれがもっている課題や困っていることなどを出し、それをまとめて条例にもっていくやり方と、既に公表されているデータを読み込こむことで、自分の意見に加えて今までの議論をまとめることで、自分の意見を改めてつくっていくというやり方があるが、これまで色々な議論をしてきたという成立の過程を踏まえると、後者のやり方を基本にしていきたいと思う。その上で、一人ひとりの意見は限定されてしまうので、皆がどういったことを考えているかを突合せながら、お互いメモを見ることができるようやり方、ブレインストーミングの手法でそれぞれのテーマについて議論を進めいきたい。</p> <hr/> <p>各人の趣味や、やって楽しいと感じたことについて意見を出してください(個人情報のため意見省略)</p> <hr/> <p>各人の普段生活している中で、地域で高齢者の問題や、子どもたちの安全の問題、ごみや水などの環境で感じる問題など、身近なところで気になることについて意見を出してください。</p> <hr/>												

- (委員) 1月に高齢者を対象にした年金の説明会があったが開始時刻が19時からであった。対象が高齢者なのに寒い夜に開催して果たしてどれだけの人が参加するのと思った。実際に参加された人数もちらほらと聞き、説明会の開始時間をもっと考えてほしいと思った。
- (富野) 後期高齢者医療制度は国がつくったものだが、実際の窓口・主体は市町村。保険料も地域によって違いが出てきていることから、この制度は国の問題でもあり市町村の問題でもあるといえる。
- (委員) 1月に市内で子どもの交通事故が起こり、PTAや保護者はそれなりの対策をとられたのに、スクールガード(地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業で、PTAや地域住民、教師が学校や通学路で見守りや警備活動に参加するもの)としても子どもたちの前に出て何かをしてあげたいのだが、行政からそういう話がないのはなぜか。
- (富野) 自治基本条例では協働を掲げており、まちの問題を市民、企業、行政が皆で解決したり、良くしたりしようとしている。子どもの安全も学校だけでは守れないので、地域の方も一緒に守ろうとなっているが、それを誰がコントロールするのかといった問題がある。あまりコントロールが強すぎると、自発的に取り組みに参加しようとしている方の気持ちを削ぐことになるので、そういった気持ちを活かしつつ、うまくいくような仕組みを考えていくことが大事で、このことを考えることが協働の仕組みづくりへ展開していく。
- (事務局) スクールガードも人に言われて参加するのと、自ら主体的に関わっているのとでは難しいところもある。通学の行き帰りは本来的には保護者の責任になるのだが、それでは市民感覚とずれているということになるので、もちろん学校も登下校経路を保護者と決めるなどしないといけない。
- (富野) 通勤途中で事故があると労災などがあるため、会社は全く関係がないわけではない。そういった社会常識から考えると、行政の方の常識がおかしいのではと思ってしまう。
- (事務局) もちろん保険の対象などにはなりますのでこれは極端な話ですが。また、不審者対策にしる、交通事故対策にしる、いつ起こるか分からない中、それを限りなく安全確保を追求すると四六時中対応しなければならず、どこまで対応するのかという問題もある。毎年続いていくと制度が当たり前になり、惰性化し負担を感じ、人と人との摩擦を生じるようにもなる。やることは勿論いいのだが、どこまでやれるのかという問題もある。
- (委員) 地域の人皆がそういった情報を受け取っているのでしょうか。広報でスクールガード募集についてあったが、応募しようか考えているうちに既に決まっていたり、後になってしてみたいと思ってもどうしたらよいか分からない状態になっていたりする。例えば自治会に話をおろして参加者を募り、地域で子どもを見守ってあげられるような仕組みにしていくべき。
- (事務局) 自治会で取り組んでいるところもあるが、自治会、保護者それぞれが見回りの活動をしているため人手不足になっている。昼間家にいる人で元気な人となると、どこまでやっていくかという点で難しくなっていく。
- (富野) 必要なことははっきりしていて、出来れば24時間完璧に見守ってあげたいが、現実的には色んな制約要因があって上手くいっていない。やりたい人、やってあげてもいい人はいるが、あるシステムの中では上手くいかず、そのシステムも劣化していく。永続的に地域の仕組みとして動くようにしていくのに問題があると言える。具体的にこういうやり方であったら、もしかすると長続きするのではということが考えられ、ひとつは英国方式で事後的に必ず犯人が捕まえられるように監視カメラを導入することで、もうひとつは日本方式で老人会が散歩をするなど、市民が出来るだけ街の中に入り目を行き届かせることで抑止効果につなげること。米原市での取り組みを考えた場合、も

し英国方式が駄目なら皆でやるしかないわけで、地域で立ち上げた組織がどういったことが出来るのかという点で、今ある仕組みをどう繋いでいくのか、自治基本条例に協働の理念があるわけで、器用な方にそういった協議に入ってもらおうとか、そういった問題について心配な点や難しいことを協働の中で具体的に地域で考えるようなやり方をやっていきたいと思いますという提案だけでもいい。条例をつくりましょうという提案もあるが、基本条例の協働の部分に最も有効な部分なので、その形を皆でつくっていくため、皆が協議に集まってやり方を作っていきような提案をする、このことで良い。

- (委員) 先日開催されたまちづくり協働フォーラムに参加し、旧近江町では自治会組織を強力にされていることを感じた。ただ近江町と他の地域とで差があるので、米原市全体で自治会に力がつくように、行政として何か検討されることはないのでしょうか。
- (事務局) この4月から4自治センターごとに地域創造会議を設け、それぞれの地域の自治会、NPO、各種団体をメンバーとする会議を立ち上げてもらう。その会議で当該地域のまちづくりの支援のあり方を議論していただき、来年度の予算に反映していくような仕組みづくりを進めている。
- (富野) 何かいい活動をしているところがあればそれを取り上げて、他にもやる人いませんかという形で、全体として皆に見える形にして、やりたい人が集まるやり方もある。ただ旧町のまとまりが今まであったので、逆にグッドプラクティス(良好実践、良好事例)が旧町でも効いてくる可能性があるもので、あまり旧町を前提に議論しなくても必ず残ってくる。
- (委員) 企業の立場から見て環境関連整備、道路整備、CO2削減対策などのガイドラインを米原市として持たれていると思うが、企業の方に明確に伝わってきていないと思う。情報発信はされているが、一方的で内容が相互理解されていない。また企業や市民はKYT(危険予知訓練)とKYK(危険予知活動)を現実に活かしているが、市は事例が発生しない限り対策を打たない点で考えが違う。その認識の違いを協議できる場があると思うが、結果的に結論が出ても活かされてない。
- (富野) 今まで陳情にどう対応するか、要望にどう対応するかが行政のサービスであり、受けた陳情に対し行政が優先順位をつけて対応できた。ところが今は事業の優先順位を含め、関係する利害関係者が集まって何が問題か、何を優先するかなどについて議論することが大切。行政も議論に加わって皆で一応の共通理解をつくり、行政はそれを受け止めて議会に理解してもらえよう提案をするというプロセスが大事。
- (委員) 優先順位をつける場がなかなか見えてこないのと、そういう場に市民や事業者の方が入っていけないのが現実かなと思う。
- (富野) 役所は市民がその議論を出来ないと思っている。市民は普段公共のことを考えるのに慣れていないから、集まってもらっても自分の言い分ばかり主張してまとまらないのではないかと思っている。だったら最初からそういうことをやり時間をかけるよりは、行政が受け止める形で中立に最善の方法をやったほうが良いと思っているのでは。
- (事務局) 誰がやったとしても当然批判は出てくる。みんな自分のことをやってほしいのにかなえられない、その不満を残しながらもおさめていく装置として行政があるわけで、予算に限りがあり全てのことが出来ない中で行政がすべての人から褒められる結論はないと思う。ただ、今の話のソフト事業で地域由来の部分を地域創造会議でやろうとしている。そこを突破口に地域の人々の行政や地域に対する見方が変わるのではと思う。この会議には行政の代表者も入り、行政として言うべきことは言うという形で話し合いをしていく取り組みを始めていくので、こういった仕組みや考え方が広まって

いけば希望が持てる面もあるかなと思う。

(富野) 今、行政は変わりつつあり予算編成をオープンにし市民に参加してもらっている。議会の審議をかける前に市民の意見を尊重し予算を削っているケースもある。これには良し悪しがあるが、協働の面からも行政だけが突っ走るのではなく、せめて計画段階に市民を交えた議論の場を持つことはあると思う。

(富野) 米原駅を降りて市役所へ行く道路標識がないのはなぜだろうか、また観光地をつなぐバスがないのか。地元では分かっているが外の人に対し優しくない、売り込もうとしていないのではと思う。

(事務局) 米原駅を利用されている方は長浜市、彦根市へ行かれる方が多く米原市に来られる方は少ないという特殊性や市の観光施策の弱さもあるのですが、今回の区画整理に伴い駅前に観光案内所のような施設が必要だというような話になっている。

(富野) 米原市には歴史的資源をはじめ、売り込める材料が豊富。米原駅を降りる方々が米原市を観光のために訪れるようになってほしい。どれくらいの価値があるのかを市民の皆様知ってもらおうと思っていないのではと思うくらい。

(委員) 米原は資産価値が高いと思う。新幹線が県内で唯一停まる駅で、名神高速・北陸道のジャンクションがあり、こんなに良いところはないと言っているが駅前には何も無い。環境整備だけでも県内で先に取り組んで、米原に入ったらものすごくきれいな街とか、そういったことは市民の活動ですぐに実現出来るのではと思うので、そういったところから取り組んでほしい。

(富野) 活動があるのに見えていない。湧水の管理を町内会や自治会でされているのがある。それは単に湧いているだけでなく守っている。それがその地域だけの人で終わっていて、あんなにすばらしい活動がなぜ米原の皆の財産になっていないのかと思ってしまう。個々の動きは色々あるわけで、それを全体につなげていくとまた面白いですよ。

(富野) 次回は米原市自治基本条例ができるまでの冊子を読み、自分なりに課題を出していただいて、それをまとめていって、生活の中での課題を確定して、その次に基本条例とどう結びつけるかという議論にしていきたい。

次回会議日程

・第5回 平成20年5月14日(水)午後1時30分～ 米原庁舎

閉会